

令和6年度 第1回 中能登町立中能登中学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和6年5月9日（木）14：35～16：15
【会 場】	中能登町立中能登中学校 会議室1A
【出 席 者】	大西 保、岡下 哲也、木村 実貴絵、古玉 路子、鳥木 教文、藤田 典知 水谷内 良郎 学校長（50音順） 学校代表者：山森 和子 教頭
【事 務 局】	学校教育課：高木担当課長 生涯学習課：大野主査 中瀬主事 山口
【次回予定】	令和6年11月12日（火）

【進行】学校教育課：高木担当課長、中能登中学校：山森教頭

1. 開会あいさつ

《水谷内学校長》

今後も、地域の人・物・事を活用しながら学校運営に繋げていきたい。皆さんには、是非、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いします。

2. 会長、副会長の承認

※委員互選により、会長：大西 保さん、副会長：岡下 哲也さんに決定。

《大西会長就任あいさつ》

少しでも成果が表れる1年にしたい。よろしくお願いします。

3. 令和6年度学校経営計画について

※水谷内学校長より説明

【質疑応答】

- 目指す教職員像について、学校経営計画の項目3が教員の働き方改革に繋がるのではないと思うが、震災で被災し、大変な想いをされている先生もいらっしゃると思うが、その後の先生方の現状についてはどうか？
⇒被災された教員は表情が暗く、笑顔がなかった。少しずつ良い傾向にはなっているが、先生方も自分の内に想いを抱え込んでいる。
⇒なかなかすぐに復興とはいかないが、先生方が元気になることが生徒にも反映される。前に進んでいくことを願っている。先生方には体に気を付けていただきたい。

4. 協議

①中能登しごと館のサポート ～資料を基に説明～

- 研修部会の新メンバーにも戸惑いがあった。お示しできるものがあつたので良かった。
- しごと館について、その年ごとのカラーがあるので、あまり介入するつもりはない。アンケートを取ったとしても、子どもたちの意向に沿った講義を受けられない子もいる。特に下の学年の子については希望が通ってない子が多い。アンケートに重きを置く必要もないのではないか。
⇒今回は大人の意見も反映させてはどうか。町としては工程表をお示しさせていただき、事務的なサポートをしていきたい。
- 総合学習について、どの学年も地域の方との関わりがあるもの、地域の産業・観光・防災等について学べるものと考えている。それに沿ったものでしごと館の講師の業種を絞っていければ、大きく逸れるということもないのではないか。

②部活動地域移行 ～資料を基に説明～

- 「地域クラブ」というのは中能登町在住の子どものみのものなのか、近隣市町を巻き込んだことを考えてのものなのか？
⇒基本的な拠点・参加者は中能登町在住の子どもということを考えているが、近隣市町の子どもたちの参加も OK という流れになっている。
- 学校単位で大会に出るとなると部員数が確保できない部活は難しい部分もある。他の市町も巻き込んで考える必要がある。
⇒スポーツ協会が認めるクラブをサポートしていく方向性でいるので、誰でもが好き勝手クラブを作って活動できるわけではない。
- 部活動関係で他市町から中能登中に在籍・通学している例もある。中能登町が活動拠点となって、地元では活動できない子を受け入れていくことも活性化に繋がる。教育委員会が音頭を取って体制づくりをしてもらえれば良いのではないか。
- 令和6年から土日の部活動を地域に移行していきたいということだが、進捗については？
⇒もともと部活動として存在していなかったもの（トランポリン・水泳など）については、それぞれのジュニアスポーツクラブで活動してもらっている。現在、部活動として存在しているものの中では、バスケットボール、陸上の一部、ソフトテニスが地域クラブに移行できる予定。
- 春休み、夏休み、冬休みの長期休業中や臨時休業の時はどうしていくのか？部活動であれば日中に練習できていたが、夜の時間になるのか？
⇒春休み、夏休み、冬休みの長期休業中には教員も出ている。教員も地域移行に反対ではないが、どうしたら良いか分からないのが現状。保護者や生徒にも周知を広め、理解・納得してもらったうえで移行を進めていきたい。事務的な業務についても話を詰めてもらい、進めていきたい。
⇒外部指導者と顧問の連携が必要。
⇒教職員からも夏休みはどうなるのか？練習時間が夜になると、子どもたちは有意義に時間を過ごせるのか？との声が挙がっている。
- 部活動指導員として入っているが、外部指導者に対しての安全講習等を行っているのか？
⇒指導者講習会を1度(スポーツ協会主催)。今年度から町が計画した講習会を実施予定。
⇒体が発達していない生徒に対しての指導方法等について学ぶべき。行き過ぎた指導やハラスメント等、抑止する人が必要。

③より良い教育環境・働き方改革に向けた取り組み

※英検補助金申請の事務作業について、教職員の業務負担を軽減できる見通し。

《総合学習授業について》

- ※1年生：特産物・防災・環境について学習予定
- 2年生：地域の観光や名勝などのアピール・地元産業について学習予定
- 3年生：町への提言・町の活性化について学習予定
- 今まで子どもたちが中能登町の観光について目を向けることが少なかった。新たな視点で良いのではないか。
- 二宮の採石場が復興には欠かせないものとしてテレビでピックアップされていた。
- 宮下町長より企業見学の提案があった。
⇒バスの手配等、町にやってもらえたらありがたい。
⇒東京都では午前中に学校内で学習し、午後からは学校を出て探求学習を実施しているとの情報もある。子どもたちが自ら学ぶ・探求するということが求められている。
- 3年生の英語の授業内容がものすごく良かった。自分で文章を作り、即興で発表する機会を設けてみるのも良いのではないか。

《学校運営協議会の教職員・生徒との関わりについて》

- 学校運営協議会は先生方の味方だということを分かってほしい。
- コミュニティ・スクールに関する先生方への意向確認をしたい。
 - ⇒気楽な雰囲気です実施した方が意見が出しやすいので、ICT活用してのアンケートや対話なども含めて考えていく。
- 小学校は授業の中に地域の方が入りやすいが、中学校の場合は、部活動や総合学習の授業などで関わってもらうことは可能だが、授業の中に入ることは難しい。中能登中学校の学校運営協議会としての関わりはどうしていくべきか？
 - ⇒そもそも「学校運営協議会」という名称がかたく、身構えてしまう。みんなで作っていくものというスタンスを広めていく必要がある。
 - ⇒中能登中オリジナルのキャッチーな名称にしてみてもどうか？
 - ⇒先生と生徒の関わり方・親と子の関わり方が今と昔では違う。大人が関わり方を変えていく必要もある。面と向かっては言えないこともあるから、ICTを活用してはどうか？
- 部活動での生徒同士の関わりについて、先生方にもできる限りの対応をしていただいたが、解決には至らず。先生方にすべてを委ねるつもりは全くないが、先生方の業務負担をより軽減し、余裕を持って生徒と向き合える時間を確保する必要もあるのではないか。
 - ⇒授業よりも部活動の方が生徒と関われる。地域移行は進めていくべきだが、先生方の手から離れるのはどうなのか？
 - ⇒部活動での関わりから、学校イベント等での関わりを増やせたらいいのではないか？
 - ⇒人間関係については、本人同士の問題。相談して解決の糸口にはなるが、本人たちの考え方や行動を変えていかなければ、根本の解決にはならない。個人個人の人格形成・人間教育を促していく必要がある。
 - ⇒地域移行について、地域クラブに加入している生徒の保護者に協力を求める方が、早めに移行が進んでいくのではないかと感じる。
- ★部活動地域移行についても、先生方・生徒の話を聞く機会についても、学校とともに模索していく。

5. 閉会あいさつ

《岡下副会長》

活発な意見を出していただいて、ありがとうございます。私自身、参考にさせていただくことがたくさんあった。1年間、一定の権限と責任をもって、皆さんと一緒に意見を出していきたいと思う。